

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	国保人間ドック・脳ドック助成事業			会計	款	項目	大	小
政策	O4	4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	保険年金課				
施策	4-4	健康で明るい暮らしづくり	主管課長	今野 忠光				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	人間ドック35歳以上、脳検査・脳ドック40歳以上の流山市国民健康保険被保険者	意図	疾病の早期発見・早期治療を行い、重症化を予防することで高額な医療費の削減を目的とする。
事業内容	被保険者の健康の保持増進及び医療費の抑制を図ることを目的として、人間ドック、脳検査、脳ドックの利用に対し、人間ドック25,000円、人間ドック+脳検査30,000円、脳ドック25,000円の助成を行っている。			
事業開始から現在までの状況変化	平成7年6月1日から本市の国民健康保険被保険者の健康の保持増進に寄与するため、流山市国民健康保険条例第6条第3号の規定により、被保険者が検査医療機関において人間ドックを利用する場合の検査に要する費用の一部を、予算の範囲内において助成しており、利用者は年々増加傾向にある。平成27年度から脳血管疾患を早期発見し医療費の抑制を図ることを目的として脳検査及び脳ドックの助成を開始した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	人間ドック利用件数	1,279	1,311	1,309	人	↑↑↑	
②	人間ドック+脳検査利用件数	265	218	255	人	↑↑↑		
③	脳ドック利用件数	299	204	213	人	↑↑↑		
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） さらなる健康増進の観点から平成27年度に事業を見直し、人間ドック助成に加えて脳ドック助成及びオプションで脳検査のMRI・MRAを選択できるようにした。助成額は7割公費負担から、人間ドック及び脳ドック25,000円、人間ドック+頭部MRI・MRA30,000円の定額助成とした。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		50,872,352	47,771,000	49,059,288				
事業費(b)(円)		47,439,852	44,415,000	45,763,288				
うち一般財源		47,439,852	44,415,000	45,763,288				
職員給与と費(c)(円)		3,432,500	3,356,000	3,296,000				
人役・職員(人)		0.50	0.50	0.50				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	人間ドック・脳ドックの利用について、被保険者への周知と理解を図る。	③取組における課題(Check)	年度の途中で受診者の受け入れが許容範囲を超えてしまう契約医療機関などがあり、助成をできないことがある。
②H30に実施した取組(Do)	広報紙や市ホームページ、ハンドブックなどにより周知を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	契約医療機関の拡充などについて、医師会や運営協議会などに対応策を検討していく。